

北海道に夜間中学をつくる会

2012 年度第 4 回事務局会議まとめ

札幌市男女参画センターエルプラザ 2 階会議コーナー
出席者（敬称略）：工藤代表、泉事務局長、飯塚、遠藤、
工藤（朱）、白倉、森川

議題

1. 『義務教育等学習機会充実法案（仮称）』成立に向けての市議会、
道議会への働きかけについて
2. 北海道自主夜間中学フォーラムの反省と次年度に向けての実行
委員会について
 - (1) フォーラムの内容について
 - (2) 移動について
 - (3) 当日までの準備について
 - (4) 記録集、その他残務について
 - (5) 最終実行委員会の開催と来年度に向けて
 - (6) その他
3. 第 58 回全国夜間中学校研究大会の参加について
 - (1) 参加確認
 - (2) 大会資料依頼原稿について
 - (3) その他
4. その他

話し合い

1. について

はじめに、集会終了後、『義務教育等学習機会充実に向けた「超党派参加・国会院内の集い」記録誌送付について』が送られてきました。そこでは、次のように書かれていました。

「ここで、皆様にご報告しなければならないことがあります。それは、今回の『集い』の名称を「『義務教育等学習機会充実法案（仮称）』成立に向けた超党派参加国会院内の集い」として、皆様にご協力をお願いしてきたにもかかわらず、当日、『義務教育等学習機会充実に向けた超党派参加国会院内の集い』と改めたことです。」

われわれは当日、集会の一文字やプログラムが改められていたが、そのことには気がつかず、この文章で初めて知りました。つまり、この「法案」は集いに提出されず、法的整備の必要性を訴えるのみの集いになっていたということです。

したがって今の時点で、議員立法として提出される目処は立っていません。ただ呼びかけ人代表挨拶で、池坊議員は来年1月ごろには立法化を目指したいと話されていました。

札幌市議会「義務教育等学習機会の充実に関する法整備を求める意見書」について

この意見書について、第三回定例会（9月20日開会）で採択したいということでしたが、各会派幹事長会議に原案を提出したところ、突然であるとのこと、また各会派に持ち帰り意見書を検討した中で、内容についても「公立夜間中学校の開設」（自主夜間中学の良さを損なう）などで異論もあり、今回は引き下げることになりました。

なお、第四回定例会（12月初め）で再提出する意向。

道議会へ第三回定例会（9月11日開会）で「意見書」を採択する働きかけについて。

民主党道下議員を通じ、意見書の採択について打診しました。その結果、「道議会文教委員会の中村裕之委員長（自民党）に対して、今定例会での意見書採択を働きかけましたが、中村委員長は、夜間中学のことや意見書の内容は突然のことであり、まだよく内容を知らない。意見書の内容を精査するにも自民党本部とのやりとりに時間がかかるため、日程的に今定例会は困難。夜間中学をつくる会からのお話は伺う用意がある」、などの回答がありました。

10月1日、中村文教委員長とお話しをし、第4定例会（11月末）で採択するようになりたいとの意向が示されました。当然、意見書の内容については、文教委員各会派議員で相談して決められます。

このように、市議会および道議会とも意見書は四定で採択される

見込みです。

この第四定例会に対して、われわれとしても両議会各会派に向けた法整備の必要性を訴えていきます。

2. について

北海道自主夜間中学フォーラムについて、主催は釧路市であることから、フォーラムの企画内容は釧路市と添田さんが立案し、それを4団体の実行委員会で検討調整することにしていました。

旭川遠友塾については、実行委員会賀根村委員長の文章呼びかけに返答がなく、生徒会とスタッフが個人的に参加してくれました。

釧路市主催の協力団体に、「釧路くるかい」と「北海道に夜間中学をつくる会」とがなりました。

企画案についても、内容はその都度相談があり、実行委員会の検討各自主夜間中の報告を経て了解されました。その中で、一番話し合われたのは「ワークショップ」の運営についてです。

開催当日までの実行委員会は三回行なわれております。

また、自主夜間中学が参加のできるように、札幌から貸切りバス2台、旭川から1台、函館はレンタカーを出してもらえました。

参加人員

地区	受講生	スタッフ	一般	合計
札幌	28	19	1	48
旭川	9	0	3	11
函館	1	5	0	6
釧路	15	21	4	40

(基調報告者見城さん、釧路市職員は含めておりません)

ただ残念なことは、旭川遠友塾において参加を望む生徒さんたちに事務局から見合わせるような話があったということを知り、その詳細については知らされていませんが、このフォーラムに参加することで、「公立夜間中学開設の運動に巻き込まれる恐れ」があるということ、「自主独立の旭川遠友塾の運営を守りたい」ということから参加を見合わせるように説得があったようだ、とわれわれは推察しています。また、スタッフの参加もなかった。

市民向け配布チラシにおいても、後援に北海道教育委員会、札幌市教育委員会が認められ、札幌と函館で配布されました。

記録誌は予算がついており、基調報告やワークショップ内容、講評などをまとめ後日発行します。

全体を通じ、釧路市小松副市長の主催者挨拶にもあったように、「道内4つの自主夜間中学の活動を知ってもらう」、「学び直しの支援」など、行政の支援をえて、受講生、生徒、学習者さんたちの交流も広がりました。

ワークショップで話し合われたことが、「花咲け出愛！ー私たちの夜間中学」が14の形になって表現される成果となった。札幌遠友塾から参加したスタッフ全員から、感想や報告がだされています。受講生も何人か、感想をまとめています。

最終実行委員会は、各自主夜間中学が集まることのできる日程で調整し、期日を決め、まとめを行ないます。

3. について

全国夜間中学校研究大会の参加は、泉・森川二名。

4. について

次回の事務局会議は、11月1日（木）午後6時30分。

会場は未定